

2020年度予算について (第4号議案補足資料)

電力広域的運営推進機関

1 2020年度収入支出予算の概要

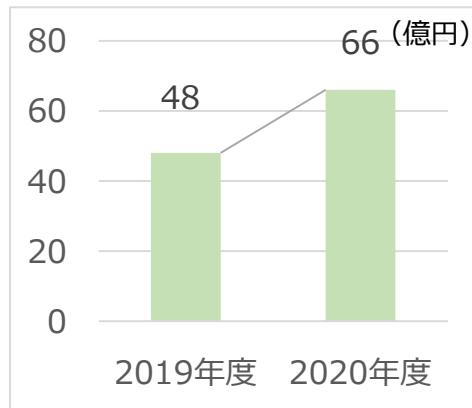
- 2020年度予算は、123億円で、2019年度と比較し、22億円増加。
- 主な増加要因は、固定資産関係費の増である（2019年度比+17億円）。

(億円)

	項目	2019年度 (A)	2020年度 (B)	(B) - (A)
収入	会費収入	87	106	19
	前年度よりの繰越金	14	17	3
	合計	101	123	22
支出	人件費	19	19	—
	固定資産関係費	48	66	17
	運営費	30	31	1
	その他	4	7	3
	合計	101	123	22

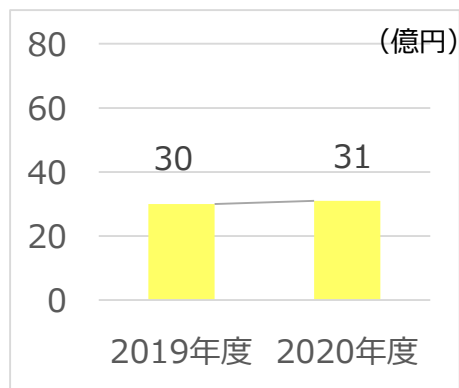
(注) 計数は、単位未満四捨五入のため合計と一致しない場合がある。

固定資産関係費



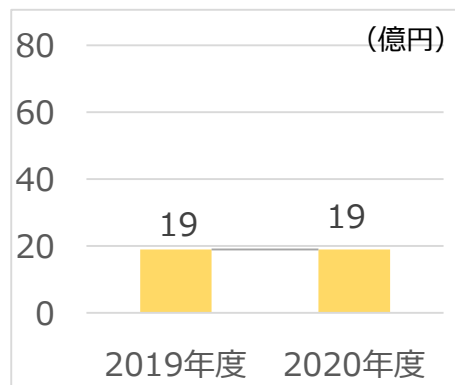
- 広域機関システム関連費用（46億円,前年度比5億円増）
制度対応開発・機能改良等、広域機関システムの整備を行います。
- 容量市場システム関連費用（9億円,前年度比8億円増）
容量市場に関連するシステム整備を行います。
- O Aシステム関連費用（8億円,前年度比5億円増）
更新期限を迎えた機関全体のO Aシステムのリプレースを行います。

運営費



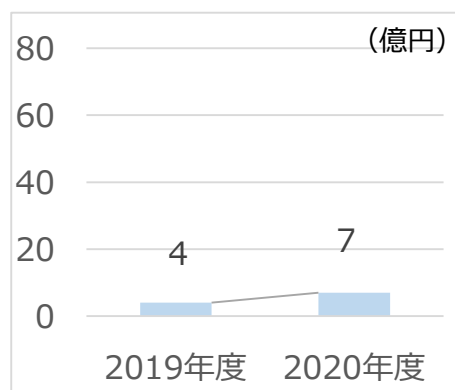
- 広域機関システム関連費用（11億円,前年度並）
広域機関システムの保守・維持を行います。
- 容量市場システム関連費用（7億円,前年度比2億円増）
容量市場システムの保守・維持、2020年7月の容量市場開設および2024年実需給開始に向けたプロジェクト支援委託を行います。
- その他システム関連費用（3億円,前年度並）
広域機関・容量市場システム以外のシステム（例：O Aシステム）の保守・維持を行います。
- 豊洲事務所・データセンター賃借料（3億円,前年度並）

人件費



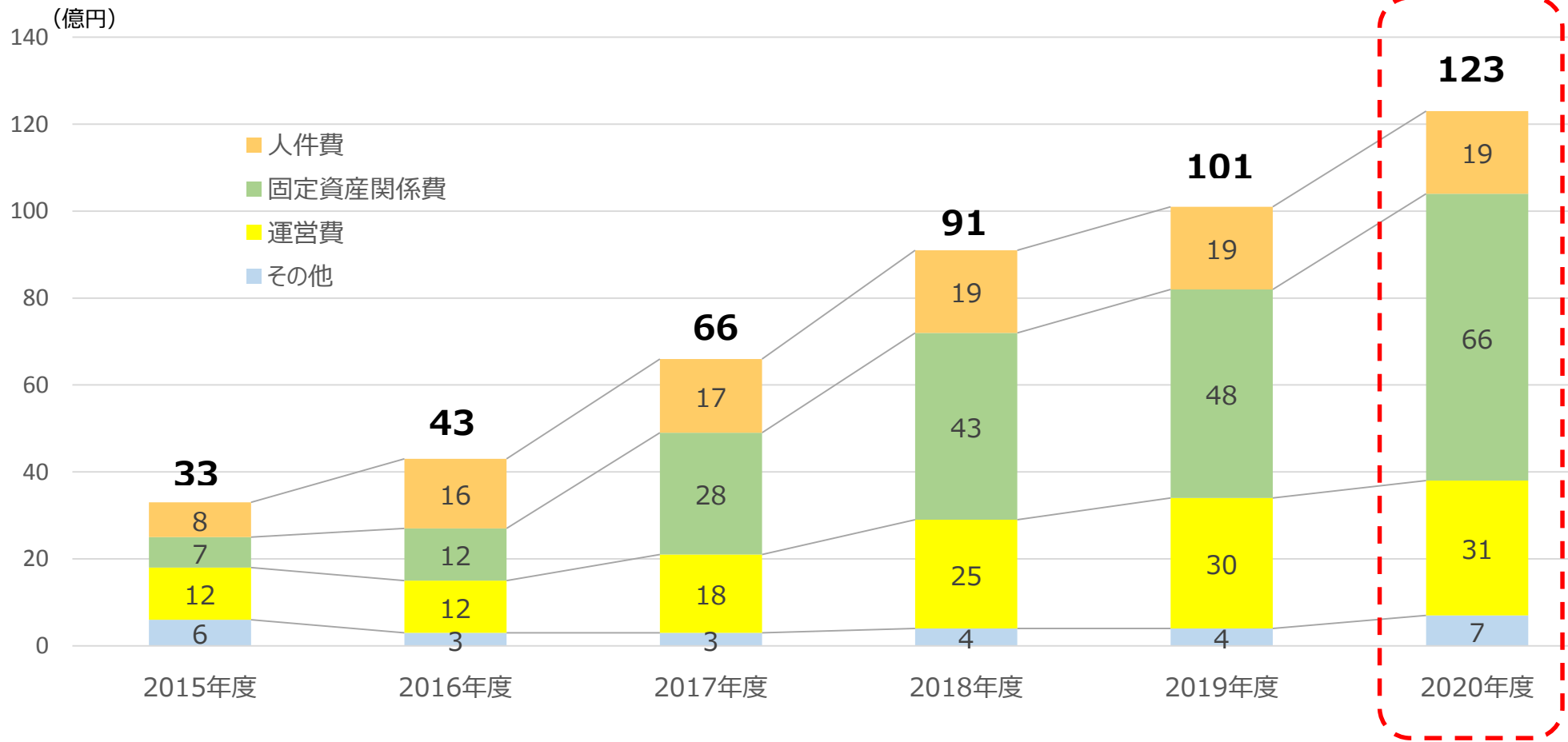
- 職員給与（15億円,前年度並）
平均人数164人/年と想定しています。
- 法定厚生費（2億円,前年度並）
- 役員給与（1億円,前年度並）

その他



- 支払利息（1億円,前年度並）
広域機関システム・容量市場システム・O Aシステムの一部をリースとしていることによる支払利息です。
- 予備費（6億円,前年度比3億円増）
新制度に対応するため、支出全体額の5%を計上しています。
(前年度は3%)

3 創立時からの予算の推移



(注) 計数は、単位未満四捨五入のため合計と一致しない場合がある。

4 コスト削減への取組みについて

業務委託範囲の厳選

✓ 必要最小限の範囲のみ発注。

(例) 費用削減効果・システム信頼性向上・利便性向上等の観点から評価を行い、優先順位の高いものに厳選してシステム改良を実施。

委託業務の内製化

✓ 人材育成により、従来外部委託していた業務を機関内で実施。

(例) 現在、外部に委託している当直業務の一部を広域機関職員にて実施し、委託業務を縮小する。

工程の工夫による 工期・工数の縮小化

✓ 工程を工夫し、ムダのない工程での委託の実施。

(例) 開発作業のピークを平準化することで、低稼働要員の発生を防ぐ。

委託先の生産性向上への 働きかけ

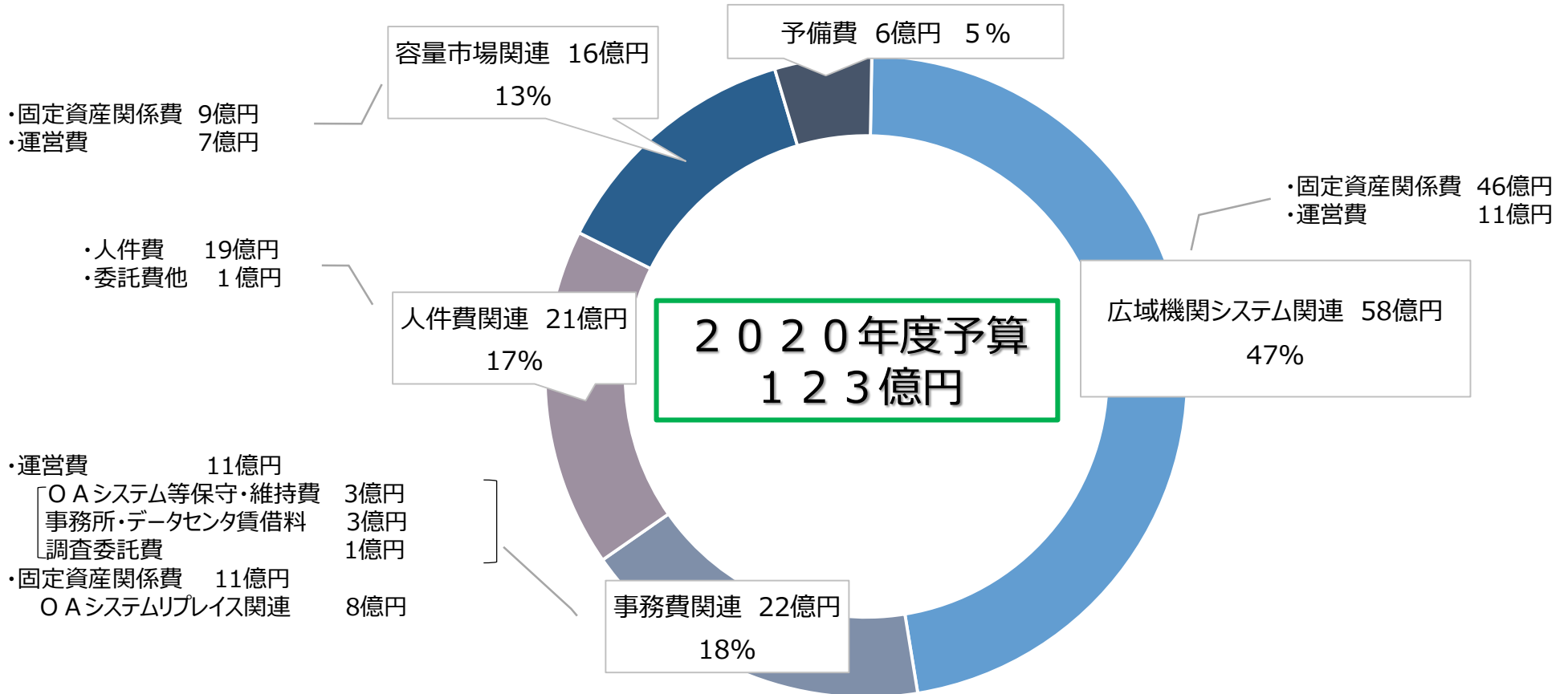
✓ 委託会社の目標管理を指導

(例) 委託会社の目標値・実績値が見える化・共有化することで、更なる生産性向上を図る。

参考：業務分類別予算配分

■ 業務分類別※の予算配分は、以下の通りである。

※ 個別予算案件を業務区分に分類した上で集計したものであり、勘定科目別分類とは異なる。



(注) 計数は、単位未満四捨五入のため合計と一致しない場合がある。